

## 第1回産学連携型認知デザインワークショップ

未来のイノベーターを育てる―「子ども向けプログラミングスクール」の可能性

日時：2014年8月4日（月）13:30～16:30

場所：京都大学 デザインイノベーション拠点

実行委員会：

楠見 孝、子安 増生、高橋 雄介（京都大学 大学院教育学研究科）

野々宮 英二、栗谷 真亮、野村 有沙（ワオ・コーポレーション教育総合研究所）

近年、小学生からのプログラミング教育が活発になりつつある。この背景には教材の技術革新の影響が最も大きい。株式会社ワオ・コーポレーションは、小学生でも簡単にそして安価にプログラムやロボットの開発ができる環境を整えるために、紙で自由に造形できるプログラミング教材「テクノペーパー」の開発を AgIC 社とともに進めている。そこで、今回の講座では、小学校高学年向けのプログラミング教材を商品化するために、「テクノペーパー」の部品を使った「テクノペーパー・クラフト」の設計図のアイデアを出し合い、試作品を作製するワークショップを実施した。参加者はデザイン学本科生2名、予科生5名、学内参加者1名、学外参加者6名、学内教員4名の計18名であった。ワオ・コーポレーションより、導電性のインクや mbed マイコンなどの基本的な知識に関する説明があったのち、参加者は各グループに分かれて、試作品の製作に取り掛かった。グループごとのディスカッションや試作品のプロトタイプ製作の結果、グリーティング・カードや立体型のオブジェなどのアイデアが創出された。今後に向けては、小学生でも簡単に組み立てられて、かつ完成品がユニークで面白く、子どもたちが満足感を得られるものを目指すという方向性や、スピーカーや LED などの付属のモジュールを活用することによって光や音の演出が工夫できたりプログラムの改良を施すことによってアイデアを自由に表現できたりするものを目指すという方向性が確認された。